

## ワークショップ報告者募集のお知らせ

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センターでは、日本におけるロシア古典文学・文化のメロドラマ的受容をテーマとするワークショップ開催を予定しており、報告者を募集いたします。

日本近代文学の成立期におけるロシアの古典文学の受容については、すでにロシアそして日本で、加藤百合『明治期露西亜文学翻訳論攷』はじめ多くの貴重な研究の蓄積がなされてきました。近年では相沢直樹『甦る『ゴンドラの唄』』など、大衆文化やサブカルチャーにおけるアダプテーションまで視野が広がっています。

一方、ピーター・ブルックスの『メロドラマ的想像力』が明らかにしたように、近代においてハイ・カルチャーと大衆文化の区別を生み、葛藤や競争をもたらすとともに両者をつなぐ役割を果たしたのがメロドラマ的想像力でした。未知の情報や状況を手持ちの図式や材料で消化しやすいように整えるメロドラマ的想像力は、近代において国境を越えた文化交流が行われ、そこから「自分たちのもの」としてナショナルな文化が成立し、古典／大衆を含むさまざまなヒエラルヒーやジャンルに分岐する過程を分析するための統一的なパースペクティブを与えてくれるでしょう。

本ワークショップでは、Ken Ito, *An Age of Melodrama: Family, Gender, and Social Hierarchy in the Turn-of-the-Century Japanese Novel* などの成果に立脚しつつ、文学以外の文化へも対象を広げ、またソ連映画研究者のオクサーナ・ブルガーコワ教授をゲストに迎えてアダプテーションに関する基調講演を行っていただくことで、日露の文化交流を新たな視点からとらえ直すことを目指します。ワークショップの内容を踏まえて、*Russian Review* 誌での特集企画を組むことが予定されています。

報告を希望される方は、以下を熟読の上期限までにお申し込みください。

日時：2023年3月17日（金）時間未定

場所：ハイブリッド開催（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター大会議室での対面+Zoomによるオンライン）

使用言語：英語

主催：「国際的な生存戦略研究プラットフォームの構築」プロジェクト（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター）

科学研究費 基盤研究(B)「ロシア・旧ソ連文化におけるメロドラマ的想像力の総合的研究」  
(19H01243 研究代表者：安達大輔)

申込方法：日本語（1,000字程度）・英語（300 words）・ロシア語（300 слов）のいずれかで報告題名及び要旨をWORDファイルに記入の上、氏名・所属・連絡先（メールアドレスが望ましい）を添えて [adaisuke@slav.hokudai.ac.jp](mailto:adaisuke@slav.hokudai.ac.jp)（担当：安達大輔）までメールでお送りください。

申込期限：2023年1月25日（水）

\* 対面参加の旅費・宿泊費は主催者の負担となります。オンラインでの参加も可能です。

\* 選考の結果、報告や特集投稿のご希望に添えない場合がありますことを予めご了承ください。